



Les Amis de L'Orgue de Tokorozawa MUSE

暑い夏も過ぎ、夜空に虫の音が響く季節となりました。花も団子も大好きな私にとって、嬉しい秋の到来です。新たにカフェ『彩』、レストラン『響』もオープンし、トコロザワを更に満喫できるようになった所沢ミュージズ。この秋も催しものや演奏会など盛り沢山のラインナップでお届け致します！

🍎 10月18日（日）パイプオルガン特別講座（後期）を開催いたします 🍎

かのヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトは1777年の書簡のなかで、「オルガンは、私の目と耳にとって、あらゆる楽器の王様です。"Die Orgel ist doch in meinen Augen und Ohren der Koenig aller Instrumneten."」という言葉を残しています。モーツァルトは生涯多くの旅を通して各国のオルガンを弾き歩き、その腕前はピアノに劣らぬ見事なものだったといわれています。自動オルガン（音楽時計）のための作品、オーケストラや弦楽四重奏、オペラなど様々な形式や編成で作品を書き、あらゆる楽器を熟知していたモーツァルトは、一体どのような思いでこの言葉を遺したのでしょうか？

紀元前3世紀に古代エジプトで発明されたオルガンという楽器は、長い時を経て、其々の国、地域や時代によって独自の発展をとげました。国はもちろんのこと、地域によってもその風土に根付いたオルガンの発展があるのが魅力の一つです。不思議とその国のムード（とくに言語において）とオルガンの音色は非常に影響し合っている印象を受けます。イタリアに行くともオルガンの発音もとても明るくハツラツとしていて、フランスにいけば時に色彩豊かで時に聴き取れないくらい滑らかな発音のオルガンに出会うことができたり、ドイツではこれまた大柄なドイツ人を思わせる骨太で重厚な音色をもつオルガンが迎えてくれます。そのほかにもスペイン、オランダなど、一言では語り尽くせぬ面白さがあるのです。ヨーロッパを巡る際には教会でひと休み、オルガンの音色に耳を傾けてみてはいかがでしょうか？

前置きが長くなってしまいましたが、このような国や時代によるオルガンの響きの違いをより深く知るための、パイプオルガン特別講座の第二回目（後期）が開催されます！前回の講座で学んだことをふまえ、今回は映像や音源を通して様々なオルガンや作品をご紹介します。

目にも、耳にも興味深いこの講座。10月18日（日）はぜひ沢山のご来場をお待ちしております。



🍎 今後のオルガン公演のお知らせ 🍎

少し先のお知らせですが、、、今年のクリスマスはオルガンの響きに包まれて過ごしませんか？

12月23日（水・祝）ヘルムート・ドイチュ 聖夜に響くパイプオルガンの調べ

ドイツオルガン界の貴公子ヘルムート・ドイチュ氏による最高のクリスマスプレゼント。なんとミュージズでクリスマスのオルガンの演奏会が行われるのは久々とのこと！チケットも好評発売中です！

🍎 感謝を込めて 🍎

私、梅干野安未が出演しました7月の500円コンサートでは、台風接近で足下の悪いなか沢山のお客様にいらして頂き、本当に有り難うございました。みなさまの温かい拍手の中、とても穏やかな気持ちで演奏する事ができました。心より御礼申し上げます。次回の500円オルガンコンサートは来年2016年2月19日（金）、姫路パルナソスホールのオルガニスト・岩佐智子さんをお迎えします。どうぞお楽しみに！